

幸いにも優勝。トロフィーと賞状を頂きました。これで指導を頂いた先生や応援して頂いた本会の会員皆様に対し面目を保てた事が何より良かったと、肩の荷をおろしたような気持ちでした。打ち上げ会で飲んだビール美味しかった事は今でも忘れられません。入会間もない私に出場の機会を与えて頂いた理事長先生の度量、暖かい声援を頂いた本会会員の皆様の厚情、それに普段の練習の重要さを身にしみるほど感じました。これからは、先生のご指導を忠実に守り、吟道に励むことは勿論ですが、本会の各教場の方々を手本とし、一日も早く本会の一員として恥かしくない吟が出来ようこれから精進して参りたいと存じます。

正会員六〇名となる

平成十年度新たに次の方々が正会員とされます。協力有難うございます。

- ・安永珀龍 (鷺 宮) ・山田志龍 (鷺 宮)
- ・小谷八龍 (龍場会) ・霜鳥清祥 (龍場会)
- ・柳橋啓祥 (船 橋) ・木代妙城 (中町会)
- ・山内久城 (船 橋) ・奈良藍水 (いずみ会)
- ・相川廣水 (中町会) ・楠 江水 (船 橋)
- ・永田遼水 (いずみ会) ・平松誠水 (いずみ会)
- ・日高一龍 (三 菱) ・中島昭祥 (洲 神)

同志増加の一途 新入会員紹介

どうぞよろしく！

- ☆山内 伸也 (泉会山内) 十年二月二七日付会員No.六〇〇
〒一六七― 杉並区荻窪五ノ二一ノ一六ノ一一〇二
〇〇五一 〇三(三三九二) 二五六三(FAX兼)
- ☆立野 曉大 (座間会宮本) 十年四月一日付会員No.六〇一
〒二五七― 秦野市下大槻四一〇ノ一ノ二ノ一〇八
〇〇〇四 〇四六三(七六) 〇八八一
- ☆立野 知香 (座間会宮本) 十年四月一日付会員No.六〇二
〒二五七― 秦野市下大槻四一〇ノ一ノ二ノ一〇八
〇〇〇四 〇四六三(七六) 〇八八一
- ☆市瀬 洋介 (拓 大) 十年四月一〇日付会員No.六〇三
〒一九三― 八王子市山田町一六〇〇ノ四相馬ハイツ
〇九三三 〇四二六(六七) 二五一八 二〇七
- ☆吉村 健志 (拓 大) 十年四月一〇日付会員No.六〇四
〒二二九― 相模原市南橋本一ノ四ノ二五ノ三〇六
一一三三 〇四二七(七二) 二一七七
- ☆田中 教之 (拓 大) 十年四月一〇日付会員No.六〇五
〒二〇一― 狛江市西野川一ノ二〇ノ三ツカサハイツ
〇〇〇一 〇六〇(一一二) 四六三九 一〇二二
- ☆小林 豊 (拓 大) 十年四月一〇日付会員No.六〇六
〒一九三― 八王子市館町八一五ノ一扶桑寮
〇九四四 〇四二六(六三) 二一一四
- ☆石沢 興二 (拓 大) 十年四月一〇日付会員No.六〇七
〒一一二― 文京区春日二ノ二三ノ一一A六〇一
〇〇〇三 〇三(五六八四) 三一一五
- ☆新谷 千代 (紫龍) 十年五月 八日付会員No.六〇八
〒一六六― 杉並区阿佐ヶ谷北二ノ九ノ四
〇〇〇一 〇三(三三三七) 九七七三
- ☆堀山 勝藏 (洲 神) 十年五月一四日付会員No.六〇九
〒一六五― 中野区野方六ノ三九ノ八
〇〇二七 〇三(三三三七) 五四七五
- ☆内田 光年 (三 菱) 十年六月二九日付会員No.六一〇
〒二一六― 川崎市宮前区宮崎六ノ一ノ四〇三
〇〇〇三 〇四四(八五五) 七八二五
- ☆三中 サト (熱 年) 十年七月 一日付会員No.六一一
〒一六六― 杉並区阿佐ヶ谷北五ノ一ノ二ノ二
〇〇〇一 〇三(三三三八) 〇九〇五

この度入会されました新谷紫龍さんは米寿、堀山勝藏さんは喜寿、田中理城さんは九三才で皆様お元気であり私共若者の活模範です。お手本にして頑張りましょう。

計 報
 幼年教場 平山優城(死亡叙位により優祥)さんは、平成一〇年五月七日逝去されました。享年八二才。謹んでご冥福をお祈りします。

教場だより

水無川の由来 座間会宮本教場 宮 本 雅 龍

私が住んでいる所は神奈川県秦野市で、人口一六万人足らずの小さな街です。この街の中央を西から東に流れている川を水無川と言います。水が流れている川を水無川と言うのは、次のようなわけがあるのです。昔は水量も多く、渡し舟に乗りななければなりません。寒い冬の日、道を急ぐ弘法さまが渡し場に着いたのは、お日さまもはや山の端に沈みかけ、この日最後の渡し舟が出ようとしているところでした。そこへ四・五人の旅人が先を争って乗り込み、弘法さまはもう乗れそうもありませんでした。「もし、もし、舟のお方や、わしも一緒に乗せてはくれませんか。先を急いでいる旅僧じゃ、顔で」と言葉丁寧に頼みました。船頭は、意地悪そうな顔で「それに乗せても他のお客様が迷惑なさるぞ。乞食坊主め」と憎々しくののしったかと思うと、竿を川底にぐいとつき、舟を出してしまいました。出てしまった舟を見送りながら「困った船頭だわい。さぞ多くの人が難儀していることじやろう」と言いながら川の流れをじっと見つめました。何かを決心されたかのような弘法さまは、「ようし、わしの念力であの船頭には気の毒じやが、多くの人達の苦勞を取り除かねばならず、そうじや、そうじや」と言ったかと思うと、両手をあわせて「一心不乱にお祈りを始めました。いつまでもいつまでもお祈りは続きました。いつの間にかとつぷり日が暮れ、東の空には欠け始めた月が高く昇っていました。やっこのことお祈りが済むと、弘法さまは月明かり頼りに川上へ昇って行き、そして飛石づたいに向こう岸に渡ることにできました。それから二〇日ばかりが過ぎ不思議にも渡し場所近くの川の水は日に日に減っていき、やがて水は全く無くなりました。船頭はびっくりして川上と川下の水流を調べに言ったところ、そこには水はとうとうと流れていました。渡し場を中心にし、河原になつてしまつたのです。それからは誰言うともなく川の名を「水無川」と呼ぶようになったのです。現在は何処も変りなく水は流れています。このおはなしは、弘法大師の単なる伝説になつてしまいました。

幼年吟士も頑張ってる座間会宮本教場



次号はいずみ教場です。楽しみに！

〇四六三(七六) 〇八八一 宮本まで

鶴巻温泉駅の北側にある二五〇mの高さの山が「弘法山」です。水無川の伝説と弘法大師はつながっているのと思いませんか。この様な環境の良い弘法山はハイキングコースになっており、健康と吟道練習場として最適であります。ので、皆様をお待ち申し上げる次第です。座間宮本教場は未だ年数も浅く少人数ながら楽しく吟に励んでおります。機会がありましたら我が教場にお出掛け下さい。

